

秋田県におけるカンムリカイツブリの繁殖初記録

西出 隆¹・船橋 功²・武田栄悦³・佐藤公生⁴

1. 〒018-2305 秋田県山本郡山本町外岡字外岡北247-5
2. 〒010-0342 秋田県男鹿市脇本字石館40-2
3. 〒018-3501 秋田県北秋田郡田代町岩瀬字杉子沢 1-6
4. 〒010-0342 秋田県男鹿市船川港船川字小沢田22-1

カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus* はウスリー南部・中国東北・モンゴルからヨーロッパ中南部の温帯におもに分布し、アフリカ・オーストラリア・ニュージーランドでは局地的に分布している(黒田 1984)。日本には冬鳥として渡来し、以前はまれに見られるだけだったが、近年渡来数が増加し、40～60羽の群れも見られるようになった(中村・中村 1995)。日本で初めて繁殖を記録したのは1972年で、青森県東部下北半島のつけ根に広がる陸奥小川原湖沼群の市柳沼と田面木沼からであった(青森県 1972)。国内ではカンムリカイツブリの繁殖個体数は少なく、一番多い青森県でも20～30羽程度にすぎない(環境庁 1991)。日本のレッドリストでは、青森県で繁殖する個体群を絶滅の恐れのある地域個体群(LP)に指定している(環境省 2002)。近畿地方では、1984年ころから瀬戸内沿岸で毎年少数が越冬するようになり、1990年には大阪府淀川での繁殖例があった。滋賀県琵琶湖では、1991年から繁殖が確認され繁殖する個体群も増加したが個体数は10羽未満である(山岸ほか 2002)。三重県桑名市長良川でも1996年に繁殖が確認された(武居 1998)。

1972年に繁殖が確認された青森県では1993年以降、森田村の狭ヶ館溜池(土方・富川 1994)、弘前市砂沢溜池と鶴田町廻堰溜池(大坂 1994)、金木町の嘉瀬清久溜池(八島ほか 1997)、宇曾利山湖(日本野鳥の会青森/弘前支部 2001)など、津軽地方の湖沼群や溜池でも繁殖が確認され、カンムリカイツブリの繁殖地域が拡大している。しかし青森県に隣接する秋田県では越冬する個体が2001年になってようやく観察されたなど分布の拡大は遅かった。そして2004年に、秋田県で初めての繁殖が確認されたので報告する。

観察結果

2004年に西部承水路五明光橋付近、天王町八郎潟調整池、能代市小友沼の3か所でカンムリカイツブリの繁殖がはじめて確認された(図1)。

1. 西部承水路五明光橋付近(40°15'N, 139°75'E)

2004年 5月 6日に八郎潟干拓地西部承水路で、カンムリカイツブリ成鳥 2羽を五明光橋北側の

2004年12月13日 受理

キーワード: 秋田県, カンムリカイツブリ, 繁殖記録

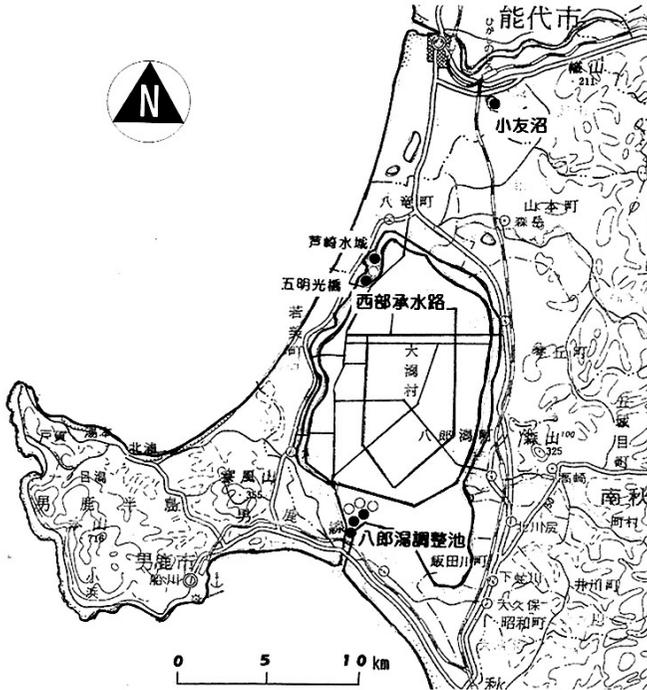


図 1. カンムリカイツブリの繁殖確認地点. ●:繁殖成功, ○:繁殖失敗

Fig. 1. Confirmed site of Great Crested Grebe's breeding.
● Successful breeding,
○ Breeding failure.

水路で発見した. 5月 7日も五明光橋から浜口揚水機場間の水路を調査し, その結果五明光橋から芦崎間の水路で成鳥 6羽を確認した. 五明光橋付近のヨシ *Phragmites communis* とガマ *Typha latifolia* 群落の近くでは, ディスプレイをするつがいがついて, その北側のマコモ *Nelumbo nucifera* 群落の水面では, 4羽の成鳥が入り乱れて追っかけあったり, 水草をくわえては首を振ったり, マコモやヨシの群落に姿を隠したり, 潜水をくり返したりと, 盛んに水面を動きまわっていた. つがいはまだ定まらないための行動であろうと推察された. 7月 8日に五明光橋付近で成鳥の背に 3羽のヒナがのっているのを確認した. もう 1羽の成鳥は, やや離れた水辺で潜水していた. このヒナ 3羽のうち 1羽は小さく弱々しかった. 翌 9日には, 前日の場所から2.8km離れた芦崎の広い水域で同一と思われる家族を観察した. 3羽のヒナが 2羽になっていて成鳥の警戒がより強くなっていた. この家族群は 15時30分に五明光橋付近に戻って来た. 7月 11日, 15日, 18日, 25日, 26日, 28日の観察でも日中は芦崎水域で採食し, 15時すぎになってから五明光橋の岸辺に戻ってくる行動をとっていた(図 2).

7月 28日の観察で, 芦崎水域にはヒナ 1羽を連れた別家族もいた. 頸から上の白と黒の縞模様が消えかかったヒナで, 親鳥の背にのることは無理な大きさになっていた. この家族群はほとんど芦崎水域で行動していて, この地域から移動する気配は全くなかった.

2. 天王町八郎潟調整池 (39°75'N, 139°92'E)

2001年に, 越夏記録のある八郎潟調整池の防潮水門近くで, 2004年 4月 11日に成鳥 2羽. 6月 2日にも成鳥 1羽が観察された. その後もこの付近の調整池で採食していたり, 巣材を運ぶ行動がみ



図 2. 採食を終え、五明光橋の水域に戻るカンムリカイツブリの親子(7月15日撮影)

Fig. 2. Parent and young Great Crested Grebes returning to their nest on Gomyoko-bridge after foraging.

られた。6月17日にはディスプレイ行動も観察された。7月2日以降このつがいの姿は見えなくなったが、時々成鳥1羽だけ観察されていた。7月26日に調整池の中洲近くで成鳥2羽が出現した。そのうちの1羽はヒナを背おっており、翼を膨らませ潜水しなかった。成鳥が羽ばたきしたとき、小さなヒナが水に浮かぶのがみえたが、ヒナの数は確認できなかった。8月1日の観察では、ヒナ3羽が水面に浮かんで給餌を受けていた。そのヒナは成鳥が中洲を離れると、その後を追うのも観察された。この家族群は中洲を中心に行動していた。8月15日のヒナは頭から胸にかけての縞模様が目立ち、見違えるほど大きくなっていった。羽づくろい行動もみられた。この家族群の北側にもヒナをつれていない成鳥2羽が観察された。8月25日には、成鳥1羽とヒナ1羽の別の家族群を確認した。この群れのヒナは、3羽のヒナよりも大きく、親のそばを離れようとするヒナであった。さらに8月26日には成鳥1羽とヒナ2羽の別の家族群も観察された。結局この地で繁殖したのは3つがいで、これらの家族群は8月下旬になると、八郎潟調整池の中ほどまで遠出し採食などしたのち、再び営巣地付近に戻るといった行動がみられた。

調整池では、それぞれの家族が離れて行動していて、接近しても争うことはなく無関心であった。この3家族群のほかにも、越夏個体が11羽も観察された。繁殖年齢に達していない非繁殖個体なのかも知れない。

3. 能代市小友沼(40°10'N, 140°03'E)

小友沼の面積は58ha。1979年3月にヒシクイ *Anser fabalis* 62羽が、初めて飛来してから、ガン類をはじめ、カモ類やハクチョウ類など冬鳥の渡来地となっている。

この沼で2003年7月27日沼の南西側、水門付近のハス *Nelumbo nucifera* 群落で巣材を運ぶカンムリカイツブリ1羽が観察された。この鳥の繁殖期は4~9月なので(須川1996)、繁殖の可能性があると期待したが1羽だけで、その後巣材運びも止めて越夏したのみだった。2004年4月30日に、沼の中洲でカンムリカイツブリの成鳥2羽が観察された。その後姿がみられなくなっていたが、5月28日に堤防沿いの岸辺で2羽が採食しているのが観察され、6月5日には、ヨシやマコモが密生

する東側の水辺に移動している成鳥 2羽を発見した。7月9日から24日にかけては、出現はするものの成鳥が 1羽だけだったり、全く姿をみせなかったりであった。ところが 8月 6日に東側の中洲近くで、成鳥 2羽がヒナ 3羽に潜水しては給餌しているのが観察された。ヒナ 3羽のうちの 1羽は、ほかの 2羽より小さく成鳥にまとわりついてそばから離れようとしなかった。大きい 2羽のヒナは、食物を受けとるため盛んに成鳥の後を追っていた。ヒナが親鳥の背中にのることが多いが、背中に乗る様子もみられないことから、沼のヒナはふ化後 2週間は経過していると思われた。その後 8月21日、25日、27日にも観察した。特に27日の観察で、採餌場所が東側の中洲付近から、沼の中ほどに移動していた。ヒナは成鳥とほぼ同じ大きさに成長し、食物も単独かヒナ同士が固まって潜水しながら取っていた。時々遠出するヒナもいるのでまもなく独立すると思われた。

秋田県では2004年に10つがいが繁殖期に残り、そのうち 6つがいが繁殖に成功した。この繁殖が一過性か、永住性が分からないが、毎年継続するとなれば個体数と分布がどのように推移するものが非常に興味がある。今後もこのあたりを継続して観察を続けたいと思っている。

謝 辞

この報告をまとめるにあたって、能代市機織の安田辰美氏からは小友沼の情報提供をいただいた。調査では日本野鳥の会秋田県支部の佐藤正生、阿部篁子、浜谷武雄、浜谷まり子、後藤恭子の各氏からご協力いただいた。奥村清明氏には英文でお世話になった。これらの皆さんに厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 青森県. 1972. 青森県の鳥獣. 青森県, 青森.
- 土方秀行・富川晶子. 1994. 野鳥情報・観察記録(1993.7~1994.7). Strix 13: 265-274.
- 環境庁. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 脊椎動物編. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 鳥類. 自然環境研究センター, 東京.
- 黒田長久. 1984. 決定版生物大図鑑 鳥類. 世界文化社, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>. 保育社, 大阪市.
- 日本野鳥の会 青森/弘前支部. 2001. 青森の野鳥. 東奥日報社, 青森市.
- 大坂知子. 1994. 野鳥情報・観察記録(1993.7~1994.7). Strix 13: 265-274.
- 須川恒. 1996. 日本動物大百科3 鳥類1. 平凡社, 東京.
- 武居栄. 1998. 野鳥情報・観察記録(1996.8~1997.2). Strix 16: 177-183.
- 山岸哲・江崎保男・和田岳. 2002. 近畿地区・鳥類レットデータブック. 京都大学出版会, 京都.
- 八島勇次・大坂知子・夏坂栄一・夏坂はる・八島慶子. 1997. 野鳥情報・観察記録(1995.8~1996.7). Strix 15: 149-160.

The first record of Great Crested Grebe breeding in Akita prefecture

Takashi Nishide¹, Kou Funabashi², Eietsu Takeda³ & Kimio Satou⁴

1. 247-5 Sotooka aza Sotookakita, Yamamoto-machi, Yamamoto-gun, Akita 018-2305, Japan
2. 40-2 Wakimoto aza Ishidate, Oga-city, Akita 010-0342, Japan
3. 1-6 Iwase aza Suginokozawa, Tashiro-machi, Kitaakita-gun, Akita 018-3501, Japan
4. 22-1 Funagawa aza Kosawada, Funagawa-minato, Oga-city, Akita 010-0342, Japan

The breeding of Great Crested Grebe *Podiceps cristatus* was verified on the Western Reservoir of Hachiro-Lake Reclaimed Land in Akita prefecture, northern Japan. Breeding was also confirmed on the other unreclaimed lakes of Lake Hachiro and Otomo Pond in Noshiro-city. These were the first breeding records of this species in Akita prefecture. Ten pairs of Great Crested Grebe stayed in Akita prefecture. Of them, six pairs succeeded in breeding.

Key words: Akita prefecture, breeding record, Great Crested Grebe, *Podiceps cristatus*

